

# 「データサイエンス学部に入学して」

データサイエンス学部 准教授  
松井 秀俊

データサイエンス学部が開設され、第1期生となる学生も入学してきました。今回は、3人の新入生から新学部に入學したきっかけや、入学してから感じたことについて話を聞きました。



データサイエンス学部1年の近藤さん(左)、藤山さん(中央)、河地さん(右)

## ●● データサイエンス学部を志望したきっかけ

近藤大貴さんは、高校時に経営工学に興味を持っており、元々は滋賀大学経済学部を志望していましたが、新設されるデータサイエンス学部が文理融合型であることに興味を持ち受験を決意しました。データサイエンス学部ではプログラミングを主に勉強したいと考えています。藤山南々子さんは、高校では理系でしたが、文理融合で幅広い勉強ができるデータサイエンス学部を志望しました。データサイエンティストが企業で不足しているという現状を知り、データサイエンスの知識と経験を積む意欲を持っています。河地卓哉さんは、文系で経済学部を志望していましたが、日本で初となる学部の1期生になる



ことに魅力を感じデータサイエンス学部を志望しました。人口推計のデータに興味を持っており、この分析を通じて地域活性につなげたいと考えています。

## ●● データサイエンス学部の講義

自分の持っている知識や考えを相手にうまく伝えるには、プレゼンテーション力やコミュニケーション能力が必要になります。3人は、現在「プレゼンテーション論」の講義を受講し、データサイエンスに関する知識や、データ分析の結果を多くの人に伝えていきたいと考えています。

また、統計学を学ぶ上で必要となる数学の講義も始まっています。藤山さんは、高校時代、数学に若干苦手意識を持っていましたが、講義内容が丁寧だと感じており安心して聴講しています。また、河地さんは、文系出身のため数学系科目についていけるか当初不安を感じていましたが、文系の学生にも分かりやすい講義であるという印象を受けたそうです。

春学期はデータサイエンスのための基礎を勉強中の段階ですが、これから少しずつデータサイエンス実践のための手法や知識を学んでいきます。近藤さんは「名古屋大学や大阪大学といった大きな大学でさえ勉強できないことをここで勉強できるので、これからが楽しみ」と話していました。

## ●● 学生生活

データサイエンス学部の新入生は1期生なので、直接の先輩はいません。しかし、キャンパスでのサークル活動に参加することで、学部内だけでなく、経済学部の学生らとも交流を広げています。近藤さんは、海外インターンシップや留学生受け入れなどの活動を行うアイセックという団体に参加しています。河地さんはアルティメットというスポーツのサークルに入り、仲間と汗を流しています。藤山さんも部活あるいはサークル活動への参加を考えていますが、選択肢が多く悩んでいるそうです。

このように、新入生は新しい学部で充実した学生生活を送っています。一方で3人とも、卒業後どのような企業に就職できるのか、やはり初の学部で卒業生がいらないためこの点は不安があるようです。しかし、データサイエンティストを必要とする声は多くの企業や自治体から届いています。4年後に彼らが立派なデータサイエンティストとして巣立つことができるよう、教員も全力でサポートしていきたいと考えています。



3人の学生と対談する松井准教授